



菊池地域献穀事業
合志市で抜穂祭

R7.10.4

豊かな実りに感謝
伝統文化や農業の大切さ伝える



地域の見守りでスクスク 頭垂れる稲穂
地元の子もたちが田男・早乙女務める

献穀事業の抜穂祭が合志市で行われました。抜穂の儀では、献穀田のある上庄（かみのしょう）区子ども会の児童12人が田男と早乙女役を務めました。献穀者の嶋田昭一さん、絹子さん夫妻、菊池地域献穀事業推進協議会の会長・荒木義行市長、副会長のJA菊池・東哲哉組合長らと共に、「ヒノヒカリ」を一株ずつ丁寧に刈り取りました。

嶋田さんは「無事にこの日を迎え安堵している。猛暑の中での管理は大変だったが、地元の皆さんの見守りと多くの方の協力で稲はスクスクと育った。良い米ができた」と笑顔を見せました。

※収穫された米は、10月16日に合志市の竹迫日吉神社で「奉告祭」、10月22日に皇居で「献穀献納式」が行われ、11月23日の新嘗祭に奉献されます。



菊池地方の五穀豊穣に感謝
菊池神社献穀田抜穂祭

R7.10.7

菊池市の菊池神社献穀田で行われ、神社奉賛会員、JA、行政他関係者30人が参列しました。67年続く伝統行事です。神事後、神職による雅楽の演奏が響く中、早乙女役のJA菊池女性職員4人と白丁（はくちょう）姿の神社総代5人が献穀田に入り、色付いた稲穂を鎌で収穫。収穫された「ヒノヒカリ」は、12月17日に神社で行われる新嘗（にいなめ）祭に献上されます。

大田主を務める木下彰さんは「高温続きの天候に心配したが、台風もなくしっかり管理もでき良い米ができた」と安堵した表情を見せました。



奉告祭
竹迫日吉神社



献穀品
精米1升・精粟5合



大田主
木下さん